

専門科目履修モデル5 「文芸コースで創作について学ぶ」

学年	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	取得単位	卒業必要単位数	
必修科目	大学での国語力	2	日本文芸史ⅠA・B	4			卒業論文	8	30単位	30単位	
	日本文芸学概論A・B	4	日本文章史A・B	4							
	日本語学概論A・B	4	文章表現論A・B	4							
選択必修科目	ゼミ		ゼミナール	4	ゼミナール	4			8単位	8単位	合計 38 単位 以上
	特講	(9)表現A・B	4	(7)近代A・B	4	(10)言語A・B	4		24単位	24単位 以上32 単位以下	
				(8)現代A・B	4	(17)日本学A・B	4				
選択科目			(12)韻文A・B	4							
		ゼミナール入門	2			編集実務A・B	4		12単位		
					表現と著作権A・B	4					
コメント	1年次にクラス分けが行われる「大学での国語力」は、大学生として学んでいくために必須の内容をあつかいます。また「日本文芸学概論A・B」と「日本語学概論A・B」は1年次から履修できる必修科目で、それらの三つは3年次までに履修しないと4年次に進級できない基礎的な科目です。2年次以降のコース選択に生かすために、ぜひ1年次から履修しましょう。以上の必修科目を履修したうえで、選択必修科目の特講は12単位分まで履修できます。2年次からの「ゼミナール」の準備となる選択科目「ゼミナール入門」も履修を推奨します。		2年次からは選択必修科目のゼミナールがはじまります。1年次の秋に受けたゼミ選抜によって所属ゼミが決まり、その所属ゼミによって所属コースが決定されます。文学コースに所属すると、各コース共通の「日本文芸史ⅠA・B」以外に「日本文章史A・B」と「文章表現論A・B」が2年次から履修できる必修科目となります。履修しないと卒業できない科目なので、余裕をもって2年次から履修しましょう。特講ではゼミナールでの研究に生かせるよう、日本の近・現代文学についての理解を深め、韻文を学んで言葉への感受性を高めましょう。		順調に履修できていれば3年次にはゼミナールでの学習も2年目になります。文芸コースではどんな形式の作品でどんな内容のものを書くのか、すべて自分で決めなくてはなりません。3年次には創作の前提となる言葉それ自体を分析する言語や、日本語による創作が含まれる日本文化を相対化する日本学といった視点から、広く創作について考えてみましょう。また選択科目には、編集の実務作業について学ぶ科目や著作権の問題について考える授業が充実しており、社会的存在としての文芸作家家についての理解を深めることができます。		4年次には、大学で学んできたことをすべて生かして書かなくてはならない、卒業創作に取り組みます。創作はとくにゼミナールでの研鑽が問われるので、1年次から履修できる必修科目以外にゼミナールの単位が4単位以上取得できていないと、4年次には進級できません。一方で卒業必要単位数を計画的に満たしていれば、4年次には好きな科目、学んでおきたい科目が比較的自由に履修できます。日文科以外の専門科目も自由科目で履修できるので、大学でしか学べないことを最後まで大事にして時間割を計画しましょう。		日文科の専門科目では、上に挙げた必修科目と選択必修科目、選択科目以外に自由科目を8単位以上履修する必要がありますが、取得単位で注意しなくてはならないのは総単位数です。必修科目や選択必修科目等の必要単位数を満たしていても、総単位数で卒業必要単位数を満たしていないことがあります。「～単位以上」となっている科目に気をつけて、とくに4年次には必要単位数だけでなく、総単位数に注意して履修してください。		

学部専門科目は、1, 2年次の履修上限が42単位なので、ここに記載されている2年次の科目をすべて2年次のうちに履修できるわけではありません。上限を超える場合は、3年次に履修してください。